

## 授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復科 昼間Ⅰ部、Ⅱ部) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生物学	細胞・組織学を中心に生物学の基礎知識を習得している。解剖学・生理学を学ぶ上で基礎知識を修得している。	2・3 学期	60	4	○			○			○	
○			保健体育Ⅰ	スポーツに伴う身体の変化を理解することができる。外傷、障害の発生メカニズムを考察でき、予防することができる。	3 学期	30	2	○			○		○		
○			保健体育Ⅱ		1・2 学期	60	2	○			○		○		
○			情報社会学	コンピュータの基本的な操作方法を修得している。ワード・エクセルなどのソフトウェアの使用ができるようになる。	2・3 学期	60	4	○			○			○	
○			表現法	筋骨格系の特徴を模写することで、名称や特徴、機能など理解している。筋、骨格を描くことができる。	1 学期	15	1	○			○			○	
○			外国語	グローバルな感性を養い、コミュニケーションに必要な最低限度の会話をすることができる。	3 学期	15	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	柔道整復師に必要な人体の構造を中心とした基礎的な解剖学的知識を学び、説明することができる。	通1 年	90	6	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ		通2 年	45	3	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ		通3 年	90	6	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	人体の機能を中心とした基礎的内容を理解し、説明することができる。	通1 年	90	6	○			○			○	
○			生理学Ⅱ		通3 年	6	6	○			○			○	



○		柔道	柔道の精神を学び、基本的な礼法や技法について修得し、実践することができる。	通1年	90	3		○	○	○										
○		職業倫理	一般的な職業倫理を理解することで柔道整復師に求められる倫理観を学び、構築することができる。	1学期	15	1		○		○	○									
○		社会保障制度	日本の社会保障制度の仕組み、運営方法などを学び、有効な活用法や問題点について考えるための必要な知識と能力を修得することができる。	2学期	15	1		○		○	○									
○		柔道整復学Ⅰ	骨折や脱臼、捻挫、その他筋、腱などの軟部損傷に対して施術を行う上での必要な基本的知識を修得し、総論的に説明することができる。	通1年	90	3		○		○	○									
○		柔道整復学Ⅱ		通1年	90	3		○	○		○	○								
○		柔道整復学Ⅲ		通1年	30	1		○	○		○	○								
○		柔道整復学Ⅳ		通2年	90	3		○			○									○
○		柔道整復学Ⅴ		1・2学期	60	2		○			○									○
○		外傷の保存療法	骨折脱臼などお外傷に対する保存療法についての基礎知識を修得し具体的な方法について説明し実践することができる。	1学期	15	1		○			○	○								
○		臨床柔道整復学Ⅰ	基礎柔道整復学で学んだことを基に、より高度な知識や技術を修得するとともに説明し実践することができる。	通2年	90	6		○			○	○								
○		臨床柔道整復学Ⅱ		2学期	30	2		○			○									○
○		臨床柔道整復学Ⅲ		通3年	90	6		○				○								○
○		臨床柔道整復学Ⅳ		通3年	90	6		○				○								○
○		臨床柔道整復学Ⅴ		3学期	60	4		○				○								○
○		柔道整復術適応の臨床的判断	柔道整復術適応について、症例を用いることで学び、臨床的に判断することができる。	3学期	30	2		○			○								○	

○		物理療法の取り扱い	物理療法の機能的特徴から、操作方法、取り扱い、適応、禁忌について学び、実践することができる。	2 2 学 期	15	1	○			○		○		
○		基礎柔道整復実技Ⅰ	基礎的な柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法などの実技を行うことができる。 臨床に近い技術の基本を修得し実践することができる。	通 1 年	90	3	○			○		○		
○		基礎柔道整復実技Ⅱ		通 1 年	90	3	○			○		○		
○		基礎柔道整復実技Ⅲ		通 3 年	90	34	○			○			○	○
○		柔道整復実技Ⅰ	柔道整復師の基礎知識を学んだうえで、整復固定法、後療法についての具体的な方法、活用の仕方、応用などを行い、技能を実践することができる。	1 ・ 2 学 期	45	1	○			○		○		
○		柔道整復実技Ⅱ		通 2 年	90	3	○			○			○	○
○		柔道整復実技Ⅲ		1 ・ 2 ・ 3 学 期	60	2	○			○		○		
○		高齢者・競技者の外傷予防	高齢者から競技者の外傷予防についての基礎知識、具体的な方法、技術を修得し実践することができる。	3 学 期	30	2				○	○		○	
○		臨床実習Ⅰ	現場での実習を通して、問診から後療法（物理療法、運動療法など）を学び、基礎的な方法から応用までを疾患別に修得し実践することができる。	1 学 期	90	2				○	○			○
○		臨床実習Ⅱ		1 学 期	90	2				○	○			○
				49科目	単位時間( 144単位・2775時間)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の結果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。